

# 糖尿病と合併症

さわのクリニック

鈴木 弘毅 先生

糖尿病はこのところ急激な増加が見られさまざまなメディアで取り上げられています。このまま糖尿病が増え続ければ10人に1人が糖尿病になりかねません。では糖尿病の治療上の問題点はどのようなものがあるでしょうか。

糖尿病の発症の典型的な状態は口渇・多飲多尿・全身倦怠感・体重減少などと言われますが、現在ではこの典型的な症状で受診される人は少なく、糖尿病と診断される機会が一番多いのは健康診断です。しかし健康診断の段階で血糖値が高いことが分かった人では上記の症状があることは少なく、「仕事に支障がないので治療を後回しにしよう」となってついつい医療機関などでの受診が遅くなったり、また治療を始めても自覚症状がないため薬の内服などがおろそかになりやすくなります。その結果知らず知らずのうちに合併症が進行していることがあります。

個人差はありますが、合併症は糖尿病になってから約10年で出てくるとされています。その合併症としては三つの有名なものがあります。

- 1) **糖尿病性網膜症**: 眼底の血管に病変が起こり、ひどくなると失明します。
- 2) **糖尿病性腎症**: 腎臓に障害が起こり、ひどくなると透析が必要になります。
- 3) **糖尿病性神経障害**: 足先のしびれ、痛みより始まり、ひどくなると足の神経が麻痺し、糖尿病性壊疽(感染・血流障害などで体の一部が死んでしまうこと)となることがあります。

このほかにも心筋梗塞や脳梗塞を起こしやすくなったりします。

残念ながら現在の医療ではこのような合併症が起こると元の状態に戻すことができません。何かと現状維持には持っていけても合併症が起こる前の状態までには治療できないのです。ですから皆さんには現在を治療しているのではなく未来を治療していると考えていただいて、自覚症状がなくてももしっかりした糖尿病の治療をお願いします。